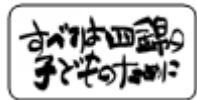


学校だより



# しまん

平成30年11月1日  
京都市立第四錦林小学校  
校長 綿越 貴久  
特別号 その2

『よりよく生きるために、自ら考え、判断し、主体的に行動する子を育てる』

## 平成30年度 前期 学校評価まとめ

今年度から、学校教育目標を「よりよく生きるために、自ら考え、判断し、主体的に行動する子を育てる」とし、重点的に子どもにつけたい力を『思考力・判断力』としました。

また、学校教育目標に迫るための「めざす子ども像」としては、以下のように設定しました。

○【自ら学ぶ子（しっかり聞く子）】

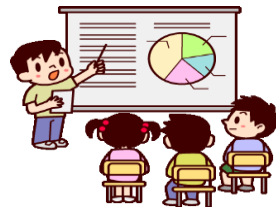
○【やさしい子（人を大切にする子・きまりや約束を守る子）】

○【元気な子（心も体も健康な子）】

この3つの視点を中心にして、質問内容を「子ども・保護者・教職員」が評価しやすい設問にしています。学校で教職員が取り組んでいることが、子どもにどのように届いているのか、また子どもが自分の頑張りをどのように捉えているのか、家庭では学校での取組がどれくらい生かされているのかということを明らかにできるように尋ねています。経年変化を見るために、ほとんどの設問は昨年度とは変えていませんが、新たに子どもの自己有用感についての質問を増やしました。

※各項目については、子どものふり返りの質問を中心に書いています。

### 自ら学ぶ子



①「チャイムを授業の場所で聞いている。」

朝休み・中間休み・昼休み終了の3分前に、予鈴の音楽「シング」が流れることは子どもたちに定着しているようです。そのためか、運動場に音楽が流れると遊んでいた子どもは、みんな教室に入ろうとします。チャイムが鳴る頃には、廊下が静かになっていることが多いので、授業時間の確保にも大きくつながっていると思います。また、教員も基本的に休み時間は子どもと過ごしているため、子どもの様子を把握するとともに、教員自らが見本となって45分の授業時間を確保するスタイルを意識しながら取り組んでいます。後期も、この状況を維持できるようにし、子どもの頑張りを認めながら「できていない」の数値をさらに少なくなるようにしていきます。

③「めあてをはっきり持って学習している。」

めあてをもって学習に取り組むことは、子どもの基礎学力の定着や学力向上を目指す上で必要不可欠です。全教員が授業を進める際は、めあてとまとめ・振り返りを徹底して行っています。子どもの数値から見ても、9割以上が「できている」と答えているので、意識が十分定着していると考えられます。これから目指していくべき「主体的・対話的で深い学び」にむけて、学習のめあてや見通し、まとめをより明確にできるようにしていき、深い学びにつなげていきたいと考えています。

⑥「朝学習では10分間しっかり読書に取り組んでいる。」

本校では、読書が好きだという子どもは多いです。図書室やわくわくルームに行って本を読むだけでなく、職員室前にある図書や子ども新聞に目を通す姿もよく見られます。朝学習の読書をしっかりとしているという数値が高いのも頷けます。また、学校司書の先生や図書委員会の子どもたちが、図書に興味をもてるような工夫や取組などを頑張っていることが背景にあるのかもしれません。その反面、家で読書をしている割合は約半数とそれほど高くはありません。「読書の秋」と言われるように、図書に親しむには今がぴったりの季節です。少しだけ時間を見つけて、親子で読書に親しんでみるのもいいのではと思います。

⑦「授業中、友だちや先生の話をしっかり聞いている。」

この質問については、前回、前々回と比べて「できている」の数値が極めて高いです。③のところでも挙げましたが、授業の見通しやめあての明確化、学習ルールの徹底などがしっかりとできつつあることが要因の一つと考えられます。しっかりと聞くことは、聞く力だけでなく話す力や書く力の育成にもつながっていきます。また、保護者の評価でも8割以上が家でしっかりと話を聞いていると回答されています。相手意識をもって聞くことが、学力だけでなく人間関係の育成にもつながりますので、この数値を維持しながら後期はさらに上げられるように取り組んでいきたいです。

⑧「授業中、自分の思いや考えをしっかり話している。」

この質問についても、「できている」の数値が高く、特に今年度は「よくできている」が半数を超える結果となりました。授業中、わかっていることや知っていることを端的に一問一答として答えるだけでなく、どうしてそう思ったのか、その考えに至った理由は何なのかなどを話しているという実感が子どもたちにもあるように思います。何でも話せるような学級の雰囲気づくりや授業の工夫は、学校の取組としてこれからも大切にしていきたいです。保護者の評価でも、9割以上が家で話をしていると回答されていますので、学校で楽しかったことやうれしかったこと、時にはつらかったことなど何でも話せるように育てていきたいものです。

## やさしい子

### ③「自分の気持ちを友達や先生に、しっかり伝えている。」

勉強する子の⑧と同様に、この質問の数値は「できている」が9割を超えていました。授業中だけでなく、休み時間や給食時間などでも自分の思いが話せているということだと考えています。ただ、学年別で見ると学年が上がるにしたがって「できている」の数値は低くなっています。子どもが話したいと思っていても、なかなか言い出せない時もあると思います。子どもの何気ない表情やしぐさの変化に注意しながら、困っているときは声をかけるようにしていきたいです。

### ④「動物や植物のことを、大切にしている。」

前回・前々回と比べて、「できている」の数値が最も高かったです。金魚やザリガニなどの生き物の世話をしている学級があり、その当番や係を決めて取り組んでいる様子が見られます。自然や生き物を大切にする心は、人を大切にするにも大きくつながります。校内にはビオトープがありますので、ビオトープ清掃やビオトープ収穫祭などの地域行事とともに、生活科や理科などの学習でも積極的に活用できるようにしていきたいです。

### ⑤「先生は自分の思いをわかってくれる。」 ⑥「家の人は自分の思いをわかってくれる。」

どちらの項目も、前回・前々回と比べて「できている」の数値が最も高かったです。子どもは、自分の思いを家の人や友だち、先生に伝えられていることがわかります。子ども一人一人の思いや悩みをしっかりと受け止められている環境が、しっかりとできているように思います。ただ、「できていない」と回答している子どもが僅かにいるので、その子どもたちの思いや悩みをしっかりと受け止めて、一人でも多くの子どもが自己肯定感を抱けるようにしていきたいです。

### ⑦「いつでも自分から声を出して笑顔であいさつをかわしている。」

「できている」の数値が8割を超えていますが、前回・前々回と比べると数値は下がっています。朝のあいさつを見ている、自分から声を出して行っている児童は多いですが、自分からであったり笑顔でしたりするところについては、まだまだ意識は十分でないように感じます。また、4月当初に比べると、子どものあいさつは増えているように感じますが、週の初めにおいては、少しあいさつの元気はないように思います。いつでも同じようにあいさつができるようにしていきたいです。

### ⑧「しきんのやくそくをまもっている。」

こちらの項目は、「できている」がいつも9割前後になっています。学校での様子を見ていると、子どもたちのきまりを守れていない姿もたまに目にします。また、だいたい守れていても、一つ守れていないことがあればもう「できていない」と判断する傾向も感じます。しきんのやくそくが徹底できるように、学校でも児童会を中心とした取組などを考えていきたいと思います。

### ⑨「このクラスには自分を助けてくれる友だちがいる。」 ⑩「自分のよいところがわかっている。」

⑨の項目については、全体で「できている」が9割以上を占めていました。特に、上の学年ほどその数値が高く、特に5年生は全員が「できている」と回答していました。このことから本校の子どもたちは、自己存在感を抱いている子どもが多いことが言えます。ただ、⑩の「自分のよいところがわかっている」については、「できている」の数値は少し低く約8割ですが、こちらは学年が低いほどその数値は高いです。子どもたちが、自己有用感を得られるよう、引き続き一人一人を大切にしていきたいと思います。

## 元気な子

### ①「外で楽しく遊んだり運動したりしている。」

「できている」の数値が8割を超えていますが、前回・前々回は9割以上だったので、それと比べると今回は数値が下がっています。普段の様子を見ていると、雨が降っていない中間休みや昼休みは元気よく運動場で遊んでいる姿をたくさん見かけます。にこにこタイム（たてわりグループ遊び）や学級全員で遊ぶ機会など、学校ではいろいろと取組を進めていますが、これから寒くなっていくにつれてますます屋外に出づらくなるかと思います。今後も、天気が良くて元気な時は積極的に屋外に出て遊ぶように働きかけていきます。

### ②「学習中姿勢を正しくしている。」

「できている」の数値が、今回は8割弱と前回よりも1割以上低くなっています。その分、「できていない」は前回の倍以上の結果となりました。学習中の姿勢は、子どもの学習のやる気にもつながっています。姿勢が悪いと及ぼす影響について、養護教諭を中心に身体測定の時などに指導したり、児童自身の机・椅子の高さ調整をこまめに行ったりしながら改善を図っていこうと思います。また、本校玄関には「姿勢の木」があり、子どもたちが頑張ると担任が花を咲かせる取組も行っています。これからたくさん花を咲かせてほしいと思っています。

### ④「早寝・早起きをしている。」

この項目については、子どもも保護者も「できている」の数値は75％前後になりました。前回・前々回と比べると、今回は最も低かったです。外遊びと同様に、これから寒くなってくると起きる時刻も遅くなってくるかと思います。また、高学年になると習い事の関係で寝る時刻が遅くなることが多くなりがちです。睡眠時間を確保することは、子どもの心身の成長や精神面のバランス維持にもつながります。ご家庭の協力を得ながら、学校でも早寝・早起きが実行できるように取り組んでいきたいと思います。

※「学校評価」へのご協力、ありがとうございました。後期もどうぞよろしくお願いいたします。